

## 今昔の愛の寺

西巖殿寺のすぐ左手には、「写経ケ橋（bridge of sutra copying）」と呼ばれる溶岩の道があります。この道路が整備される前は、写経ケ橋は火口へ登るための主要な道でした。僧侶や神職だけが火山の神聖な中心部まで登ることを許されていました；一般の人々は、150メートルほど登ったところにある関所までしか行けませんでした。「オンダケサンマイリ」と呼ばれる婚前の慣習として、多くの若いカップルがこの場所を詣でました。

オンダケサンマイリをする人々は、春と秋の彼岸にこの寺に訪れました。1860年代後半まで、寺の西側の開けた場所に数多く住んでいた修験者たちが参詣者たちの登山を先導していました。とはいえ、1871年に明治政府によって修験者たちが退去させられ西巖殿寺が廃寺とされた後も、参詣者は絶えませんでした。大正時代（1912-1926）の記録には、赤い着物を着た女性たちが長い列をなして山を登っていく、遠くから見るとさながら彼岸花の一筋のような様子が伝えられています。

縁結び（結婚と恋愛のご縁）は、古くから西巖殿寺の重要なテーマでした。このテーマの現代的なアプローチとして、西巖殿寺は2011年に公式の「恋人の聖地」（プロポーズにぴったりのロマンチックな場所という意味）の認定を受けました。座っている牛の像は、2022年に設置されました。参拝の際には、ぜひこの牛を撫でながら願い事をしてみてください。